

時を重ねる

～時の変化の中で木の多様性を知る～

敷地面積：840.2㎡
建築面積：289.9㎡
延べ面積：771.1㎡
(1階：268.9㎡、2階：246.2㎡、3階：256.0㎡)
建蔽率：32.0%
容積率：91.8%

01 敷地

愛知県豊田市にある本敷地は、現在は駐車場として利用されている。本敷地は豊田市駅から徒歩約10分ほどの場所に位置し、周辺には住宅やオフィスが並ぶ。



敷地配置図 S1:2000

豊田市は愛知県内でも有数の森林を有しており、市域の約7割を占める。そこで、市の森林資源を市に還元するという意味で敷地を豊田市に選定した。また、地元の森林資源を地元で使うことで地産地消、森林業界の活性化に貢献し、さらには、コストの削減にも繋がるなど多くの利点が考えられる。

03 構造計画

木造で大スパンを実現するために柱・梁・筋交を二重にし、荷重を分散させる架構とする。また、あえて構造材を見せることで木の使われ方を知る。



柱：120角
梁：120×250
筋交：120角

外装はガラスのカーテンウォールとすることで木の劣化を防ぎ、美しい木の経年変化を楽しめる。

柱・梁・筋交を二重にすることのもう一つの意味



木と人が2つの軸となり、支え合うことで未来へと時を重ねていく。

02 時を重ねる

時を重ねるものには一年単位、数十年単位、数百年単位と様々あるが、時を重ねているという実感はなかなか感じにくいものである。そこで、これまで時を重ねてきたもの、これから時を重ねていくものを同時に感じられる空間を提案することで、自身が歴史の変化上に存在していることを再認識できると考えた。



1年の時を重ねるものとして四季がある。敷地内に市の木であるケヤキを植えることで季節の変化を感じるものとする。また、構造材には、伐期をむかえた市の森林資源から製材した木材を使用する。このことは、約60年の森林資源のサイクル「植える・育てる・伐る・使う」の一部であることを認識することを目的とする。さらに、約150年の時を重ねてきたまちの歴史（養蚕業・自動車産業）を受け継ぎ、未来のステップを豊かな森林資源から発展させていくことで木の多様性を知る。

04 平面計画

本施設は1階のみ一般利用が可能な木造3階建てのオフィスである。

・各階の概要

- ・1階：カウンター・カフェ・休憩スペース・屋外テラス
- ・2階：会議室・個人デスク・グループデスク・フリーアドレス
- ・3階：フリーアドレス

・利用者



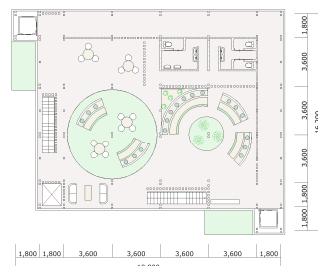
1階
老若男女すべての人



1～3階
オフィス利用者



1階平面図 S1:400



3階平面図 S1:400



2階平面図 S1:400

05 立面計画



南側と西側にはまちの歴史を表す3段のステップにより未来への飛躍を表現した。また、構造が二重になっているため、筋交の形状にも変化が生まれ、東西と南北で見た目のデザインに差を生ませた。地域の森林資源は構造躯体のみでなく、内装にも格子として利用したり什器に使用したりすることで、地域の森林資源のサイクルの一部であることの認識の強化に努めるつもりとした。

1階床面を地面から900mm高くすることで、目線の高さに差を生ませ、目線の一致を避けるつもりとした。これは南側の外部に位置する屋外テラスを利用する際に特に効果を発揮するものである。



西側立面図 S1:200



南側立面図 S1:200

06 断面計画



南側断面図 S1:200

1階から2階にかけて、明るさを取り入れるために吹き抜けを設けたが、一般利用とオフィスの境目がなくなるため、木を介して1階から2階をつなぐつもりとした。各階に木を設けたが、これは人と木がともに成長し、時を重ねていくことをより身近に感じるためのものである。

07 採光・通風



西側断面図 S1:200

外周を囲むガラスのカーテンウォールに反射したやわらかい光が室内にそそぐ。また、内装に格子を採用しているため陽のあたる角度によって影の向きに変化が生まれる。

各階の吹き抜けを通して風を循環させる。

08 内装計画



1階休憩スペースからカフェを臨む



2階グループデスクを臨む



3階フリーアドレスオフィスを臨む

1階は外からの延長線のような雰囲気を感じられるように木を配置し、それを囲むように円形のベンチを配置した。

1階からつづく木の吹き抜けにより室内でも緑を感じることができる空間を実現した。什器にも木材を多用し、木のぬくもりを感じる計画とした。

隣り合う室同士を壁で仕切るのではなく、120°の柱で仕切ることで開放的、閉鎖的の中間のような感覚となるようにした。